

授業科目名	教職論				
担当教員名	大槻雅俊				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれています。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚・責任感をもって進路選択ができるようにします。授業では今日的な教育課題について教育現場の具体的な事象や教育関連法規などを取上げて進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教師としての基礎的資質に関する知識	児童・生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する知識を身につけることができる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ成績評価を「-」（評価しない）とします。レポートなどの提出については指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
5回の小レポート	： 内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて10段階で評価をします。
50%	
15回目の授業のなかで小テスト及び小論文	： 教師としての基礎的資質に関して、独自のルーブリックに基づいて評価をします。知識理解と表現力の観点から3段階で評価をします。
30%	
受講状況	： 授業中の学習意欲、受講態度(受講マナーについて、私語、携帯電話の使用など授業と関係のない行為をした場合は減点対象とします。)を、チェックリストを活用し、独自のルーブリックに基づいて総合的に評価します。
20%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣
山口健二・高瀬淳 編『教職論ハンドブック』ミネルヴァ書房
ほか、適宜授業で紹介いたします。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
通常の講義形式で行うが、適宜グループワークなど、実践的なワークを取り入れる予定である。映像資料を用いることもある。授業計画はあくまでも参加者や状況が確定する以前の計画にすぎないので、参加者個々の能力や置かれている状況等により変化した形に対応することもある。毎回の授業の瞬間を大切に、参加者とともに本授業が各人に最適なものとなるよう、ともに場を作っていきたい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日 4限
場所： 教育第4研
備考・注意事項： オフィスアワーは水曜日、4限ですが、そのほか研究室は室中いつでも質問等可能です。

授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	オリエンテーションと教職の意義 授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。	教職の意義のなかで教師とは何であるか復習し、自身が目指す教師像を述べることができるようにする。	4時間
第2回	学校教育の現状と課題 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。	教育の諸問題のうち学力について調べてまとめる。	4時間
第3回	教職についての社会の見方 教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。	教員の品格について問題となることが予想される事象を調べてくる。	4時間
第4回	求められる教員の資質能力(1)－教員としての人間性－ 教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受け入れる受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。	教員の心身の健康と児童・生徒の関係をまとめる。	4時間
第5回	求められる教員の資質能力(2)－教師の能力－ 教員は授業が勝負であると言われ、ひとり一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。	教師の授業力を高めるための取り組みをまとめる。	4時間
第6回	教職員の種類と資格 教員の免許や資格について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。	学校教育に携わるうえで必要な公的資格をまとめ、説明できるようにする。	4時間
第7回	教員の身分保障 教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。	教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。	4時間
第8回	教員研修と向上心 教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。	研修の種類と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。	4時間
第9回	教員の力量と学習指導 小学校の全科、中学校の専門教科（家庭科、国語科）など教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。	教科指導と生徒指導の両輪関係を述べるようにする。	4時間
第10回	教員の力量と校務 校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適性について理解する。	校内の職務としての校務分掌を事前に調べてまとめる。	4時間
第11回	校務分掌とその実際 校務分掌の内容について、学校運営上必要である教務、研究、生活指導、保健などの実際の様子や課題を理解する。	校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えることができる。	4時間
第12回	学校外の職務と教員の関わり 地方の教育行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力が重要であること、教員のかかわりについて理解する。	学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。	4時間
第13回	学校、家庭、地域の連携と教員の関わり 地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。	学校、家庭、地域の連携の重要性をまとめることができる。	4時間
第14回	教員をめぐる事件・事故 不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。	学校の安全管理（校内外）をまとめ、発表できるようにする。	4時間
第15回	まとめと授業全体の振り返り 教員として教育現場に赴く際、一人ひとりの児童・生徒への深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたる理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。	自身が描く教師像と努力すべきことがらをまとめる。	4時間

授業科目名	教育学				
担当教員名	榎原志保				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

学校教育に携わる専門職として求められる教育の基礎理論として、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想、社会的、制度的事項、学校と地域との連携並びに学校安全への対応に関する基礎的事項を学ぶ。今日におけるわが国の教育を成り立たせている教育の思想や歴史、制度、また、その土台にある理念・目的を理解し、それを踏まえて自己の「教育」理解を問い直し、視野を広げ、深めるとともに、現代社会における教育課題や教員としての役割や使命、責任についての認識と考えを深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育に関する理念、歴史及び思想の理解	教育の歴史と思想の理解を踏まえ、今日の教育及び学校の営みの成り立ちや現代の教育課題を述べることができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育制度、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する理解	現代公教育制度の意義・原理・構造について基礎的知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携や学校安全への対応について具体的な取り組み事例を挙げて述べることができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		教育に関する他者の意見や主張を丁寧に聴き、正確に把握することができ、また、自分の意見や主張を、文章や口頭発表をとおして、分かりやすく正確に伝えることができる。
2．DP4. 課題発見		現代社会における教育をめぐる諸課題について、自分なりの問題意識をもつことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
各回授業内での小レポート	： 授業内容を踏まえた論述ができていれば2点とし、重大な誤りや不足があれば1点とする。これを15回分実施。
30%	
授業外学修課題	： 授業外学修課題への取り組みを、理解度や課題意識を重視して評価する。
15%	
授業内小テスト	： 学期中に3回小テストを行い、語句や基本的事項の理解度を確認する。
30%	
学修のまとめレポート	： 学修成果のまとめとして、授業内容を踏まえての自己の教育理解について論述する。1. 授業内容の正確な理解、2. 論述の説得力の観点から評価する。
25%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
新井郁男・牧昌見 編著	教育学基礎資料 第6版	樹村房	2010年

参考文献等

原聡介 監修 田中智志 編 『教育学の基礎』 一芸社
 佐藤学 編 『教育本4.4』 平凡社
 田中智志 今井康雄 編 『キーワード 現代の教育学』 東京大学出版会
 木村元 小玉重夫 船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣

その他、各回授業のなかで適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限（10：40～12：10）

場所： 教育第4研究室

備考・注意事項： 質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは授業のなかでお伝えします）。
 Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション — 「教育学」を学ぶ意義を考える — 教職課程において、なぜ「教育学」を学ぶ必要があるのかを、①「教育」に対する理解の交換（グループワーク）、②「教育学」がめざすことの学習を通して理解する。	これまで自分がどのような場面で「教育」を受けてきたのか、「教育」と聞いて何をイメージするのか、まとめておくこと。 4時間
第2回	「教育」の意味 「教育とは」という問いから、各人のもつ教育観を振り返り、「教育」の意味の多様性と共通性について考察する。	「教育」とはどのような意味をもつものなのか、類義語との比較を通して整理すること。 4時間
第3回	「教育」の場所 人間形成は多様な「教育」の場所を通過しながらなされていくことについて考察するとともに、そうした場所の相互関係がどのように変遷してきたのかについて理解する。	人間形成が行われる場としての地域、家庭、学校の相互関係の変遷とそのなかでの「教育」の意味の変遷について整理すること。 4時間
第4回	現代の子ども観と教育観 子ども観と教育観との結びつきに着目し、「教育」を校正する要素としての子ども理解の問題について考察する。	現代的な社会状況のなかでの子ども観と教育観との結びつきについて整理すること。 4時間
第5回	家族と社会による教育の歴史（1）西洋の教育思想と歴史 家族と社会が教育の担い手であった、近代以前の西洋における教育の思想と歴史を学び、理解する。	近代以前の西洋における教育の思想と歴史について整理し、代表的な教育家の思想についてまとめること。 4時間
第6回	家族と社会による教育の歴史（2）日本の教育思想と歴史 家族と社会が教育の担い手であった、近代以前の日本における教育の思想と歴史を学び、理解する。	近代以前の日本における教育の思想と歴史について整理し、代表的な教育家の思想についてまとめること。 4時間
第7回	近代教育制度の成立と展開（1）西洋の教育思想と歴史 西洋において近代教育制度が成立・展開していく過程における教育の思想と歴史を学び、理解する。	近代教育制度の成立と展開にかかわる教育の思想と歴史について整理し、代表的な教育家の思想についてまとめること。 4時間
第8回	近代教育制度の成立と展開（2）日本の教育思想と歴史 日本において近代教育制度が成立・展開していく過程における教育の思想と歴史を学び、理解する。	近代教育制度の成立と展開にかかわる教育の思想と歴史について整理し、代表的な教育家の思想についてまとめること。 4時間
第9回	現代日本における公教育制度の原理及び理念 現代日本における公教育制度の原理及び理念について、教育関係法規に基づいて理解する。	現代日本における公教育制度の原理及び理念について、教育関係法規に基づいて整理すること。 4時間
第10回	現代日本における公教育制度の仕組みと諸課題 現代日本の教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて理解し、併せて、教育制度をめぐる具体的な諸課題について考察する。	現代日本の教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて整理すること。 4時間
第11回	現代社会における教育課題（1）世界における教育課題と教育政策の動向 世界で見られる教育課題と教育政策の動向について理解する。	世界で見られる教育課題と教育政策の動向について整理すること。 4時間
第12回	現代社会における教育課題（2）日本における教育課題と教育政策の動向 日本で見られる教育課題と教育政策の動向について理解する。	日本で見られる教育課題と教育政策の動向について整理すること。 4時間
第13回	現代日本における学校教育の課題（1）地域との連携 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。	地域との連携に基づく開かれた学校づくりが進められてきた事例を調べ、その意義について整理すること。 4時間
第14回	現代日本における学校教育の課題（2）学校安全への対応	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性と具体的取り組みについて、事例を調べ、整理すること。 4時間

	学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。	
第15回	まとめ — 「教育学」を通しての学びを振り返る — 「教育学」授業を通しての学びを振り返り、総括する。	本授業で扱った内容を整理し、復習しておくこと。
		4時間

授業科目名	教育心理学				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

授業概要

教育心理学では教育にかかわる様々な問題を理解し、それらの対処や解決を行うために、各種心理学的な観点からアプローチを行う。本講義では、種々の心理学に関する基本的な知識を学びながら、幼児や児童および生徒の心と身体の発達過程を理解するとともに、学習の成立過程についても学ぶ。これらを通じ、各種発達段階に応じた適切な学習指導の礎となる考え方の理解を深める。講義では配布資料を読むだけでなく、映像資料の視聴や学生同士の話し合い、そして簡単な心理学実験を行い、前述の目標を達成する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	教育に関連する心理学の考え方を理解する。	教員として求められる心理学的な知識を身に付ける。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		教育現場における幼児、児童および学生について深く理解し、適切な関わり方を考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。 (2点×15回=30点)	30%
小テスト	： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(10点×2=20点)	20%
期末試験	： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(50点)	50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回	授業計画	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	教育心理学とはなにか 授業の目的、内容、評価について確認を行い、心理学や教育心理学の基本的な考え方を理解する。	4時間 配布資料を復習し、次回キーワードの「原始反射」「喃語とクーイング」についてあらかじめ調べておく。
第2回	幼児の言語発達 幼児の発達、特に原始反射や幼児の言語獲得について理解する。	4時間 配布資料を復習し、次回キーワードの「発達の最近接領域」「物体の永続性」についてあらかじめ調べておく。

第3回	幼児と外界との関わり 幼児の発達、特に発達の最近接領域や物体の永続性について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「ピアジェの認知的発達段階理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第4回	発達段階理論 幼児の発達、特にピアジェの認知的発達段階理論について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「心の理論」「ボウルビイの愛着理論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第5回	心の理論と愛着理論 幼児の発達、特に心の理論や愛着理論について理解する。第1回～第4回を範囲とした小テストを行う。	配布資料を復習し、次回キーワードの「発達障害」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第6回	発達障害の理解 学習障害、ASD、ADHDについて講義と映像を通じて理解を深める。	配布資料を復習し、次回キーワードの「古典的条件付け」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第7回	古典的条件付けの理論 人間の学習における古典的条件付けについて学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「試行錯誤学習」「洞察学習」「オペラント条件付け」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第8回	オペラント条件付けの理論 人間の学習におけるオペラント条件付け、試行錯誤学習、洞察学習について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「強化スケジュール」「動機付け」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第9回	強化スケジュールと動機付け 人間の学習における強化スケジュールや、動機付けについて理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「技能学習」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第10回	技能学習の特徴 人間の学習における技能学習について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「観察学習」「模倣学習」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第11回	観察学習と模倣学習 人間の学習における観察学習や模倣学習について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「類型論」「特性論」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第12回	性格の諸理論と性格検査 性格の類型論や特性論について学び、性格検査について理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「適応機制」「心理療法」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第13回	適応機制と心理療法 適応機制や心理療法について学び理解する。	配布資料を復習し、次回キーワードの「教育評価」「集団とリーダー」についてあらかじめ調べておく。	4時間
第14回	学習評価の心理的要因と集団 教育現場における教育評価に関する知識と、評価が歪む心理的要因や、集団におけるリーダーについて理解する。	配布資料の復習を行う。	4時間
第15回	まとめ 本講義の内容を整理し、言及できなかった点を中心に補足します。	これまでの授業を復習し、疑問点をまとめてくる。	4時間

授業科目名	国語科指導法				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

母語としての言葉は、私たちの日常（物の見方・感じ方、あるいは他者との交流）を支えるばかりではありません。自身や対象を捉え、表現する言葉の獲得は、個の成長とも密接に関わるものです。本講座では、国語科教育の意義と目標、指導の系統性や方法について捉えていくこととなります。また、学習者（生徒）自身の実感や言葉を教室で置き放ち、共有するために必要な授業づくりの技能の修得をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

国語科教育の意義に関する理解。国語科教育の内容「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の系統性に関する理解。

目標：

中等教育における国語科の学びの意義と重要性について理解することができる。
中等教育における国語科の目標と内容を知り、その繋がりを理解することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP5. 計画・立案力
- 3 . DP6. 行動・実践

現状を捉えた上で、いま解決すべき課題に気づくことができる。

課題解決のための具体的な道筋を見据え、計画を立てることができる。

計画に従い、課題解決のための具体的な取り組みを遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

学習指導要領に関する小テスト	15%	50点満点の小テストを講義時に3回実施し、その素点の合計を評価割合に換算します。
学習指導案作成	20%	小課題として学習指導案作成を2度（10点×2）実施し、過不足なく各項目を記述できているか評価します。評価規準は、講義時に提示。
模擬授業	40%	模擬授業で扱う教材の学習指導案（15点）、模擬授業の内容（25点）について、評価します。模擬授業の評価基準は講義時に提示。
模擬授業評価票の記入	10%	提出された模擬授業評価票（他の受講生の模擬授業に対する評価およびコメント）の記述内容により評価します。評価基準は、講義時に提示。
受講態度	15%	各回の授業への参加態度（通常時の発言・模擬授業での生徒役としての発言）、課題への取り組み姿勢により、評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
白瀬浩司	『国語科教育法・教材分析及授業実践』	エフプラット	2013年

参考文献等

- 『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省）
『高等学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	国語科教育の目標と内容 学習指導要領に示された目標および内容の構成について理解するとともに、中学校における各学年の目標を確認します。	4時間
第2回	中学校国語科における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の内容 学習指導要領を参照しつつ、中学校の各学年における「3事項」と「3領域」の指導事項と、その系統性について理解します。 ※学習指導要領・小テスト（1）	4時間
第3回	高等学校国語科における目標と科目構成 学習指導要領を参照しつつ、高等学校における目標と各科目の構成について理解します。 ※学習指導要領・小テスト（2）	4時間
第4回	向田邦子『字のないはがき』の授業—実践事例から授業づくりの流れを理解する— 随筆教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自身の授業づくりに備え、授業の流れや準備について理解します。 ※学習指導要領・小テスト（3）	4時間
第5回	芥川龍之介『羅生門』の授業—実践事例から自分なりの授業づくりをイメージする— 小説教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自身の授業づくりに備え、授業の流れや準備について理解します。	4時間
第6回	鷲沢萌『ほおずきの花束』の授業—実践事例から自分なりの授業づくりをイメージする— 小説教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自身の授業づくりに備え、授業の流れや準備について理解します。 ※学習指導案作成演習（1）	4時間
第7回	山田詠美『蝉』の授業—実践事例から自分なりの授業を構想する— 小説教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自分なりの授業づくりについて構想していきます。 ※学習指導案作成演習（2）	4時間
第8回	清水薫範『トンネル』の授業—生徒たちに作品から何を取らせるか— 小説教材を用いた授業実践事例を参照しながら、自分なりの「教材観」をまとめる作業に取り組みます。	4時間
第9回	学習指導案作成—授業計画を構想する— 学習指導案の形式と書き方について学修します。	4時間
第10回	授業指導技術—発声法・立ち位置、発問の仕方・板書の仕方など— 教壇での教員の所作や発問・板書などの技術について理解し、各自が教壇に立って実演します。	4時間
第11回	模擬授業（1）—授業指導技術を再確認する— 教員役担当者の模擬授業に他の受講生は生徒役として参加するとともに、発声や目配り・立ち位置、発問や板書の適否について評価します。	4時間
第12回	模擬授業（2）—授業展開・授業内容の適否について考える— 教員役担当者の模擬授業に他の受講生は生徒役として参加するとともに、発声や目配り・立ち位置、発問や板書の適否について評価します。	4時間
第13回	論説教材の授業づくり 論説教材に関する教師用指導書と自身が用意した学習指導案を照らし合わせながら、グループで討議をしてひとつの学習指導案をつくり上げます。	4時間
第14回	古典教材の授業づくり	4時間

	古典教材に関する教師用指導書と自身が用意した学習指導案を照らし合わせながら、グループで討議をしてひとつの学習指導案をつくり上げます。	
第15回	教育実習での教壇実習から、やがて現場実践へ繋ぐために 受講生による模擬授業の総評を行うとともに、教育実習に臨む際の留意点や、やがて教員となった時の現場実践への取り組み方などについて理解します。	講座での学びを振り返り、自身に不十分だと感じる点があれば、重点的に学修を続け、担当者の指導を受ける。 4時間

授業科目名	家庭科指導法				
担当教員名	松岡依里子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義で家庭科教育におけるキーワードを学び、学習指導案を作成し、発表し、履修者相互に意見交換を行い、授業方法について再考します。具体的には、単元ごとに学習指導案を作成するための教材研				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

現代の生活課題や教育課題から中学校の家庭科で取り扱われている教育内容を概観し、家庭科の課題を整理したうえで、家庭科の授業を創造する力を育成する。

具体的には、現代の生活課題や教育課題をどのように解決し、どのような生活をつくりあげていけばよいかについて学ぶ。さらに生活課題について、家庭科でどのように取り上げ、教材化し、授業を構成していくのかについてICTも活用し、提案する。アクティブラーニングを活用した教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、家庭科教員としての資質や能力を向上させる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	衣食住、生活経営などの各単元の理解	実習や実技例から家庭科の内容を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	家庭科の教材作りおよび学習指導案の作成、模擬授業	単元内容について、教材化し、学習指導案を書ける。また、それに基づいて、模擬授業ができる。
汎用的な力		
1．DP5. 計画・立案力		家庭科の単元について年間計画をたてることができる。
2．DP6. 行動・実践		教材研究、学習指導案、模擬授業を通して、他者評価から、再構成できる力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「―」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業後に書いてもらうコメント 20%	： 授業内容を的確にまとめ、理解しているかという観点から評価する。
グループワークにおける関与度 10%	： 関与度について、独自のルーブリックに基づき、評価します。
課題 40%	： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づき、評価します。
最終レポート 30%	： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づき、評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ 中学校技術・家庭科教科書(家庭分野)	・ 開隆堂	・ 2019年
	・ 中学校技術・家庭科教科書(家庭分野)	・ 東京書籍	・ 2019年
中間美砂子・多々納道子編著	・ 中学校・高等学校家庭科指導法	・ 建帛社	・ 2013年

参考文献等

- ・ 柴田義松監修 大竹美登利 赤塚朋子 鶴田敦子編著 家庭科の本質がわかる授業1～3 日本標準
- ・ 大竹美登利編著 家庭科教育 教科教育シリーズ07 一藝社
- ・ 望月一枝 倉持清美他編著 生きる力をつける学習 ―未来をひらく家庭科― 教育実務センター

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限
場所： 生活デザイン第2研究室
備考・注意事項： 生活デザイン専用メール及び授業前後で対応する。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安時間
第1回	今日の生活課題と家庭科の意義 教科「家庭科」における目標と指導について学ぶ。	学習指導要領を読んでおく 4時間
第2回	アクティブラーニングと家庭科 家庭科におけるアクティブラーニングの活用法について学ぶ。	アクティブラーニングの内容について整理しておく 4時間
第3回	家庭科の創造：食とグローバルイゼーション グローバル社会における食の流通について学ぶ。	フードマイレージ、食糧自給率について調べておく。 4時間
第4回	家庭科の授業：ウェイビングマップによる課題整理 家族、食、健康、地域、地球をキーワードに食の課題について整理する。	持続可能な食生活の課題についてまとめ、教材を作成する。 4時間
第5回	家庭科の授業：食領域を中心とした教材作成 テーマを設定し、食領域における教材作成と模擬授業を行う。	教材作成について再考する。 4時間
第6回	家庭科の創造：グローバリゼーションと衣生活 グローバル社会における衣服の消費と課題について学ぶ。	消費者庁のホームページから、消費者問題についてレポートを書く。 4時間
第7回	家庭科の授業：衣領域を中心とした教材作成 衣服のコーディネートを中心とした教材作成を行う。	教材作成について再考する。 4時間
第8回	家庭科の創造：社会システムと家族、保育 社会システムに組み込まれた保育の現状と課題について学ぶ。	子どもの頃の育ちを分析しておく。 4時間
第9回	家庭科の授業：保育領域を中心とした教材作成 保育領域の中のテーマを設定し、教材作成する。	教材作成について再考する。 4時間
第10回	家庭科の創造：セーフティネット、貧困と生活資源 セーフティネット、貧困と生活資源との関係について学ぶ。	キーワードノートを作成する。 4時間
第11回	家庭科の授業：住領域を中心とした教材作成 社会課題に対応し、「住む」を再考できるような教材を作成し、模擬授業を行う。	教材研究のポイントを中心に、まとめておく。 4時間
第12回	家庭科の創造性：ESD SDGsをもとに、持続可能な社会と生活について学ぶ。	学習指導要領とのかかわりについて再考する。 4時間
第13回	家庭科の授業：ESD 持続可能な生活について作成した指導案をもとにして、模擬授業を行い、授業観察後、相互評価をする。また改善点を自分の授業に生かす。	模擬授業を行い、自己、他者評価の結果から、新たな授業案を作成する。 4時間
第14回	主体的な家庭科の学び：評価 家庭科における評価について、4観点から学ぶ。	ルーブリックについて調べておく。 4時間
第15回	ジェンダーと家庭科教育 家庭科の資質を再考し、男性家庭科教員の生き方を事例に家庭科教育の未来を考える。	家庭科の専門性とは何か、最終レポートを書く。 4時間

授業科目名	道徳教育の指導法				
担当教員名	服部敬一				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

道徳教育の基盤である道徳の意味や善悪、正しさについての理解をもとに、学校で道徳教育を行うことの意義について理解する。その上で、学習指導要領がめざす「特別の教科 道徳（道徳科）」と「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」それぞれの特徴、目標、内容等、指導方法についての理解を深め、道徳教育の理論や方法、道徳性の発達について論じる。また、教師に姿勢や態度、指導力について理解する。さらに、「特別の教科 道徳」の学習指導案の作成、師範授業、模擬授業、討議等を通して授業についての理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳的に生きることにはどのような意味があるのか、道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	「特別の教科 道徳」の指導に関する専門的な基礎知識と実践的な技能の獲得	「特別の教科 道徳」の授業理論、教材理解、指導方法、評価について理解し、実践的な授業力や評価する力の基礎を身につけることができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		物事を根本から考え直すことで、課題に気づくことができる。
2．DP5. 計画・立案力		目標を明確にし、それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
シャトルシート	30% : 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
指導案作成	10% : それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案が作成できているかどうかを評価する。
受講態度	10% : 授業に積極的に参加し、進んで課題に取り組む態度を評価する。
期末試験	50% : 授業内容の理解度を評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
島恒生、藤永芳純、小寺正一他	・ 小学校道徳教科書「小学道徳 生きる力」1年～6年	・ 日本文教出版	・ 30年
文部科学省	・ 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	・	・ 30年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は●単位の科目であるため、平均すると毎回●時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

回	道徳的に生きることの意味	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることについて理解を深める。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	道徳的に生きることは世知と一致しないように見えるかも知れない。果たしてそうなのか？道徳的に生きることの意味について理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、道徳的に生きることについて理解を深める。	4時間
第2回	現在は価値観の多様化と言われる社会である。したがって、道徳の問題には答えがないように思われがちである。果たしてそうなのか？価値観が多様化する社会における道徳教育はどのように行われるべきかについて考えを深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、価値観が多様化する社会における道徳教育について考えを深める。	4時間
第3回	児童（子ども）と社会と道徳上の課題 今の日本社会における子どもの道徳に関わる問題について話し合うとともに、資料をもとに理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、子どもの道徳上の問題について考えを深める。	4時間
第4回	『小学校学習指導要領』における道徳教育が「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」によって構成されていること、それぞれの特徴や機能について理解する。	『小学校学習指導要領』やノートを用いて復習し、「学校の教育活動全体を通して行う道徳教育」と「特別の教科 道徳（道徳科）」の特質について整理し、記憶する。	4時間
第5回	道徳教育において分かることの意味 道徳教育では「分かること」よりも「感じること」「意欲を高めること」が重要であると思われがちである。ここで、今一度、道徳教育において分かることの意味について考え、理解を深める。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、子どもの道徳上の問題について考えを深める。	4時間
第6回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解 「特別の教科 道徳（道徳科）」の教科書に載っている教材を用いて、それで何を指導するか、どんなことに気付かせるかについての理解を深める	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の教材理解について考えを深める。	4時間
第7回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業構想 前時の教材を用いてどのような授業をすればよいかを構想し、それを交流し合う中で、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業理論について理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくりについて考えを深めるとともに、授業構想を立てる。	4時間
第8回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業 前時の授業及びその後で作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、その授業について意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深めるとともに、学習指導案を改善する。	4時間
第9回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の師範授業 前時と同じ教材を用いて指導者が模範授業（模擬授業）を行い、その授業について意見を述べ合い、指導者の指導を通して「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深めるとともに、学習指導案を改善する。	4時間
第10回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業づくり これまでの模擬授業、師範授業を通して深まった考えに立ち、新たな教材を用いて指導案を作成する。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深める。	4時間
第11回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の模擬授業の検討会 前時に作成した指導案について、検討し、課題や改善点を明確にすることで、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業についての理解を深める。	講義の内容を教科書や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の授業について考えを深める。	4時間
第12回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価 『学習指導要領』が示す「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について理解するとともに、授業評価、子どもの評価の意味についても理解する。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の評価について考えを深める。	4時間
第13回	「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成 講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画について考えを深める。	講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノートを用いて復習し、「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画について考えを深める。	4時間

<p>「特別の教科 道徳（道徳科）」の指導計画の作成について、『小学校学習指導要領』の基本的な考え方、その意味について理解する。</p>		
<p>第14回 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育</p> <p>学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることを理解した上で、道徳教育の全体計画をもとに、その特質、教育の場、教育の方法、手だてについて具体的に理解する。</p>	<p>講義の内容を『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』や配付資料、ノート等を用いて復習し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について理解を深める。</p>	4時間
<p>第15回 学級づくりと道徳教育</p> <p>小学校教育における学級は、道徳性を育む上で重要な場である。そこで、どのような目標をもって、どのように児童（子ども）を育てていくのか、その基本的な考え方について理解を深める。</p>	<p>講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し、学級づくりと道徳教育について理解を深める。</p>	4時間

授業科目名	教育方法論				
担当教員名	山本はるか				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、学校現場において、教育目標を実現するために何をどのように教えるかという教育方法の課題を取り扱い、生徒を指導するための方法・技術を学ぶことを目的とする。具体的には、教育目標・教育内容・教材・教授行為・教育評価の各側面から、授業実践を行う上で基礎となる知識を修得することをめざす。そして、教育現場での実践に生かせるような教育方法の理論的知識や概念、および情報機器の活用などを含めた今日的課題について理解を深め、多様な側面から授業づくりにおける実践的な力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育方法に関する基礎的な知識	教育方法の基本的な考え方や知識を修得することができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	授業づくりに関する専門的な知識・技術	教育方法の基本的な考え方や知識を修得したうえで、それらを学習指導案の作成と授業実践に活用することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		授業づくりに際して、教員が直面する課題を見出すことができる。
2．DP5. 計画・立案力		発見した課題の解決に向けて、学習指導案を作成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
定期試験	： 基礎的な知識を問う問題を出題する。 50%
授業内課題を含むレポート	： 基礎的な知識を用いて、学習指導案を作成できているかどうかを判断する。 50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説』
 - ・田中耕治編『時代を拓いた教師たち』日本標準、2005年
 - ・田中耕治編『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準、2009年
 - ・奈須正裕『教師という仕事と授業技術』ぎょうせい、2006年
 - ・田中耕治編著『教職教養講座 第5巻 教育方法と授業の計画』協同出版、2017年
- そのほか、各テーマにあわせて適宜授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日のお昼休み
場所： 研究室

授業計画

第1回

オリエンテーション：「教育方法」の範囲、授業を構成する要素
本講義の目標、内容、評価を知る。授業を成立させる要素について考える。

学修内容を整理する。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

第2回	教育目標論：教授法・学習観の変遷 教授法・学習観の変遷を知り、教育目標について考える。	配布資料を読み、整理する。	4時間
第3回	学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（1）教師の指導言 教師の指導言の重要性、種類を知る。	教師の指導言を観察する。	4時間
第4回	学習者の学びと教育内容をつなぐ教授行為（2）発問の工夫 教師の教授行為のうち、特に「発問」の意義を知り、発問づくりを行う。	発問づくりを行う。	4時間
第5回	学習者の学びを高める教材・教具論（1）教育内容・教材・教具の区別 教育内容・教材・教具について、それぞれの定義を押さえ、区別することの意義を知る。	マイクロ・ティーチングで扱う教材・教具を探す。	4時間
第6回	学習者の学びを高める教材・教具論（2）教材解釈・教材開発 教材解釈・教材開発の違いを知る。学習指導案で使用する教材を開発する。	マイクロ・ティーチングで扱う教材・教具を工夫する。	4時間
第7回	学びの様式と指導形態（1）学習集団論、学習形態 能力別編成、学び合いの授業などを知る。	学修内容を整理する。	4時間
第8回	学びの様式と指導形態（2）板書、情報機器の活用 板書の方法、情報機器の活用方法を知る。	マイクロ・ティーチングで扱う内容について、板書計画を立てる。	4時間
第9回	教育評価論：目標と評価の一体化、目標に準拠した評価、パフォーマンス評価 教育評価論の歴史と、今求められる評価の考え方と方法を知る。	これまでの学修内容を整理する。	4時間
第10回	中間まとめ、マイクロ・ティーチング・オリエンテーション 授業の導入の意義や目的を知り、導入5分間の授業づくりを行う。	テストの復習をする。マイクロ・ティーチングの構想と練習を行う。	4時間
第11回	マイクロ・ティーチング（1）5分間の授業導入 5分間の授業導入を行う。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	マイクロ・ティーチング（2）分析 前回の振り返りを踏まえて、分析を行う。	振り返りシートを完成させる。	4時間
第13回	学習指導案の作成（1）教育目標・教育内容の検討 学習指導案を作成するために、教育目標と教育内容を整理する。	学習指導案レポートを作成する。	4時間
第14回	学習指導案の作成（2）発問・教材の検討、授業展開の練り直し 学習指導案を完成させるために、発問や教材を検討し、授業全体の展開を練り直す。	学習指導案レポートを完成させる。	4時間
第15回	まとめ グループで学習指導案を検討し、これからの教育実践の在り方について考察する。	学習指導案レポートの吟味、修正を行う。	4時間

授業科目名	生徒指導・進路指導				
担当教員名	土田光子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	授業の初めに行う講義を受け、その内容についてグループワークに取り組み、発表することを基本とします。それを1時間で行う場合も、さらに学びを深め3時間で発表になる場合もあります。				

授業概要

学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実践するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題も含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動及び進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級形成のあり方について考究する。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導及び進路指導に関する現代的な課題を探求し、実際の教育活動への示唆を得る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

望ましい生徒・進路指導のあり方に対する知識はもとより、多くの事例に触れ、グループワーク・ロールプレイなどで技能を身につけ実際に実践できる力を見につける。

目標：

子どもの事実寄り添い、確かな知識と技能を駆使して子どもの未来を切り開いていくことの責任を実感し、教員になるべく決意を固める。

汎用的な力

- 1 . DP9. 役割理解・連携行動

自分の役割を誠実に果たすとともに個人で完結できる指導はないことを知り、学校内・家庭・地域・関係諸機関との連携の方法を知る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)
- ・その他(以下に概要を記述)

事例検討は、一人ひとりが書き込んだポストイットカードを、班で模造紙に貼り出しブレインストーミングでうかんだ班の結論を、全体に発表するという形で行う。その各班の発表を聞いた後、全体で討論を重ね、今日の学びについて各自振り返りカードに7行以上の文章でまとめて提出する。その振り返りカードは全員分打ち込み次回の授業で復習教材として利用する。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

毎回記入し提出する振り返りカードについては、全員分写し取った通信を次回の授業で配布し、全員で共有する。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への参加度	20%	： 毎回のグループワークで各自が書いたポストイットカードを採点する。
授業中の課題達成率	30%	： グループ発表の貢献度・発表内容を採点する。
レポート	50%	： 毎回の振り返りカード・中レポート・大レポート、計15回のレポート。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「生徒指導提要」文部科学省 教育出版
「子どもを見る眼」土田光子 解放出版社
「私を創ったもの」土田光子 明治図書

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 随時電子メールで質問を受け付ける。

授業計画

		授業外学修課題にかかるとする自らの時間
第1回	オリエンテーション：生徒指導・進路指導の授業概要 生徒指導、進路指導を学ぶ意味と進め方について知る。グループ編成を行う。	学修内容を整理する。この講義に期待するもの及び自分の問題意識を整理しておく。
第2回	学校現場における生徒指導・進路指導の位置づけと体制 学校現場における生徒指導・進路指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知る。また、それはどのような子ども観をもとに何を目標として実践されているかを知る。グループワークを行う。	学修内容を整理する。生徒指導・進路指導の位置づけと体制について、グループワークで論議したことをまとめておく。
第3回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動など教育課程における生徒・進路指導の意義と重要性 「生徒指導とは問題事象が生じたときに当事者に対して行う指導」「進路指導とは進学就職に関する個別面談のこと」という学生の固定観念を払拭し、日常を含めたさまざまな場面、各教科各領域で取り組まれているものであることを理解するとともに、その重要性について知る。グループワークを行う。	学修内容を整理する。学校教育現場で生徒指導・進路指導がどのような場面・時間で取り組まれているか、まとめておく。
第4回	生徒指導の理論と手法（1）－集団指導・個別指導の原理と方法 集団指導 すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を前提にしつつ、個別の課題を抱える児童生徒への個別の生徒指導があることを認識し、ここでは主に集団指導を中心にその原理と方法について考究する。グループワークを行う。	学修内容を整理する。集団指導についてのグループワークでの論点をまとめる。
第5回	生徒指導の理論と手法（2）－学級集団形成の目的と方法 自尊感情をはぐくむ 児童生徒が集団の中で起こる対立や葛藤を教材に、その解決を図るさまざまな取り組みによって個を鍛え、自尊感情が芽生え、結果として集団全体も育っていく事実を知り、集団づくりの大切さを実感する。ここでいう自尊感情とは、単にほめられたから育つものではなく、他者と協力して困難に立ち向かい、自分の役割を責任を持って果たしたという達成感の中で育まれるという事実について、多くの実践例から学び取る。グループワークを行う。	学修内容を整理する。同調圧力の蔓延した仲良し学級ではなく、多様性を認め合える関係性の中でようやく安心と協働が生まれる実践を読み意見をまとめる。
第6回	生徒指導の理論と手法（3）－個別指導 生徒指導に関する法令内容の理解 個別指導について考究する。問題行動に走る児童生徒の背景について事例をもとに分析し、児童生徒の発するSOSを見逃さないことの重要性と、児童生徒が抱える課題につぶされず自己と向き合う生き方を探求していく手法を学ぶ。また、子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、個別指導で陥りがちな体罰の問題を含め、法令内容を理解し、懲戒・体罰と教師の指導性について考察する。グループワークを行う。	学修内容を整理する。個別指導の事例に触れ、グループワークで論議になったことについてまとめる。
第7回	実践事例研究（1）－いじめ問題（インターネットによる誹謗も含む）の構造と対策 いじめに関するワークショップから、被害者・加害者・傍観者・介入者（味方）の4種類の立場について知り、被害者だけが自分では選択できない立場である（ほかの立場は自分で変えられる）ことを発見する。この構造を知った上で、どうすれば味方になれるのか、グループワークやロールプレイを通して探求する。またメディアリテラシーについても学びを深めていく。	学修内容を整理する。自分自身の、いじめについての加害・被害・傍観者・みかた体験について配布されたプリントに記入し、次回提出する。
第8回	実践事例研究（2）－暴力行為・虐待問題の構造と対策 ネグレクトや心理的虐待を含む虐待問題の実際を多くの事例を通して知り、児童生徒を暴力に駆り立てる背景に、自身が受けてきた虐待の存在がある可能性が極めて高いことを理解する。担任一人が抱え込んで解決できる課題でないことを認識し、連携のあり方と重要性について考究する。グループワークを行う。	学修内容を整理する。虐待問題において学校・家庭・地域・関係諸機関の連携によって指導に成果が上がった事例を、授業で扱った事例以外に探しまとめる。
第9回	実践事例研究（3）－不登校への対応 不登校について、背景によってさまざまな実態があることを知り、解決に向けた取り組みの事例をもとに学校の責務を実感するとともに、学校・家庭・地域・関係諸機関の連携が大きな支えになることを理解する。グループワークを行う。	学修内容を整理する。不登校対応において自身の学校時代の体験や文献などから学校・家庭・地域・関係諸機関の連携によって指導に成果が上がった事例を、授業で扱った事例以外に探しまとめる。
第10回	キャリア教育・進路指導の理論と進め方	学修内容を整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、キャリア教育について文献にあたる。

	<p>キャリア教育を単なる職業体験学習、進路指導を単なる高校選択指導と錯覚することがないように、その本質を人生教育として捉えなおすため、理論と進め方について具体的に知る。グループワークを行う。</p>		
第11回	<p>生徒指導・進路指導・キャリア教育における学校・家庭・地域社会の連携</p> <p>学校が家庭や地域との連携して取り組んだ生徒指導事・進路指導・キャリア教育事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。</p>	<p>学修内容を整理する。地域をあげた取り組みは実は日常的にあることがわかる新聞記事をもとに感想をまとめる。</p>	4時間
第12回	<p>職業に関する体験活動を核としたカリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>子どもや地域の実態を踏まえ教育課程を編成・実施・評価し改善を図る一連のサイクルを、計画的・組織的に推進していくというカリキュラム・マネジメントの考え方を知り、何日間かの授業をなくして地域のさまざまな事業所に向き行く職業体験学習を核にして、具体的にその方法を理解する。</p>	<p>学修内容を整理する。「カリキュラム・マネジメント」について自分なりに定義できるような文献にあたる。</p>	4時間
第13回	<p>ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育</p> <p>すべての生徒が学校や学級の生活によりよく適応し、豊かな人間関係の中で有意義な生活を構築できるようになるとともに、将来の生き方を考え行動する態度や能力を育んでいくという、ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育のあり方について考究する。</p>	<p>学修内容を整理する。「ガイダンス機能の充実」というキーワードで文献にあたる。</p>	4時間
第14回	<p>キャリアカウンセリングの考え方と方法</p> <p>児童生徒が自己実現を目指すなかで生じる葛藤や迷いに対し、どのような援助行動をとることができるのか、そこで行われるカウンセリングの考え方と実際について事例をもとに考究する。 単なる夢の追求ではなく、児童生徒自身の適性・能力を含めた自己理解を促し、どう支援し方向付けるか、学生自身の体験を重ねながらグループワークを行う。</p>	<p>学修内容を整理する。自分が受けた進路指導・キャリア教育と重ね、役立ったアドバイスについてまとめておく。</p>	4時間
第15回	<p>まとめー理論と実践の統合を図るために</p> <p>望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究してきた今、実践者として今後自分につけたい力、深めたい課題についてレポートにまとめる。</p>	<p>学修内容を整理する。15回の授業全体から学んだことをもとに、今後の課題と展望についてまとめておく。</p>	4時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	松岡依里子・佐伯暁子				
学年・コース等	1・2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	各担当教員による講義およびディスカッションで対話型授業を行います。また、内容により実習先別指導、個別指導します。各回の指導内容については、プリントにまとめて記録し、提出します。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

事前指導では、教育実習Ⅰ・Ⅱに必要な基本的事項と心構えについて講義し、実習に対する目的意識を明確にし、教育実習が効果的に行われ、また、実り多いものとなるようにします。
事後指導では、教育実習のまとめをして、実習日誌の整理、実習校への対応等を含め、自己評価を行うことにより、各自が教育実習体験を有効的に活用できるようにします。教育実習の事例について発表し、他者評価、自己省察を行い、グループディスカッションにより教育実習の効果を高めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育実習への参加のための知識と理解	教育実習の意義を知る。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実習に必要な技術	学校特性に応じた実践力を身につける。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		教師としての資質を身につけ、実習校で適応できる力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則、欠席は認められません。「教育実践への対応」の到達度で評価する。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
課題レポート	: ルーブリックに基づき4段階で評価します。 60%
授業内課題	: ルーブリックに基づき4段階で評価します 40%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・本学作成の教育実習記録
- ・教育実習ガイド

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜4限
場所：	生活デザイン第2研究室
備考・注意事項：	生活デザイン学科専用メール及び授業前後の質問を受け付ける。 グローバルコミュニケーション学科の学生には、担当教員が対応する。

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかるとする時間
第1回	中学校教育実習の意義と目的 ・教育実習の意義を学ぶ。 ・大学および教育実習校の指導体制の概要を理解する。 ・実習依頼の手続きと心得を学ぶ。	2時間
第2回	中学校教育実習体験発表 ・先輩の中学校教育実習体験から学ぶ。	2時間

第3回	「教職履修カルテ」の説明と記入 <ul style="list-style-type: none"> ・「教職履修カルテ」の概要について学ぶ。 ・「教職履修カルテ」の記入可能な箇所について、各自が記入を行う。 	履修カルテから何を学ぶのかについてレポートを書く。	2時間
第4回	教育実習の基本的事項と実習校での諸活動 <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に参加するにあたり、教育実習の基本事項を確認する。 ・実習校での諸活動を確し、教育実習に必要な準備について見直しを得る。 	実習校に見合った基本的事項について調べておく。	2時間
第5回	人権教育 <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の現場で重要な人権的配慮について、具体的な事例をもとに学ぶ。 ・教育実習先でどのような人権的配慮が求められるのかを各自が確認する。 	人権についての課題レポートを作成する。	2時間
第6回	望ましい授業のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい授業をするために必要な知識や技術を学ぶ。 ・発問、板書、掲示等について、その重要性和ポイントを学ぶ。 	板書の内容、書き方について練習する。	2時間
第7回	学習指導案および教育実習記録の意義と作成 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の学習指導案の意義を踏まえ、その書き方について基本事項を学ぶ。 ・各教科ごとに学習指導案の一部を実際に作成してみる。 ・中学校実習記録の記入について、基本事項を学ぶとともに、配慮すべきことを確認する。 	実習記録の意義について再考する。	2時間
第8回	(事前指導) 実習校の実態をふまえた課題の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の各実習校について、その実態を学ぶ。 ・各実習校の実態を踏まえて、事前にどのような準備が必要かを考える。 	事前準備事項についてまとめておく。	2時間
第9回	(事後指導) 中学校教育実習の報告・反省 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教育実習について、実習後に各自が自己の実習をふり返り、報告するとともに、反省事項を確認する。 ・実習記録の内容を確認し、必要に応じて指導を行う。 	教育実習の内容の発表を通して、他者から学んだことをレポートに書く。	2時間
第10回	教育実習の成果と自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議・発表を通して、教育実習全般について各自がふり返り、教育実習で得たものは何かを考える。 ・教育実習を通して明らかとなった、各自の実践的な課題について確認する。 	教育実習について自己省察と課題についてレポートを書く。	2時間

授業科目名	教育実習Ⅰ・Ⅱ				
担当教員名	松岡依里子・佐伯暁子				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	2
授業形態	・上記に記載のとおり、各実習校の定める実習計画に従って、教育実習に参加します。・教育実習ノートを毎日記入し、実習校の指導者にコメントをもらい、完成させ、提出します。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

大学で学んだ講義や演習、実技を総合的に整理活用し、現場で実践・研究することにより、教育に対する理解を深めます。実習校における全教育活動を通して、学校教育の実際を体験し、生徒理解、教育課程、学習指導の研究、実践勤務のあり方等を学び、望ましい教師像を形成します。

中学校での教育実習は3週間あるいは4週間です。ただし、ある学校で2週間実習し、別の学校で2週間実習するなどの場合もあります。したがって、教育実習期間の前半が教育実習Ⅰ（2単位）、後半が教育実習Ⅱ（2単位）に相当します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育知識や技能を実習の場で活用する。	学校、生徒とかわりながら、教師の資質をはぐくむ。
汎用的な力		
1．DP6. 行動・実践		教師の職業理解およびその実践力を身につける。

学外連携学修

有り（連携先：各自の実習校）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として欠席は認められません。成績評価は実習校評価にウエイトを置く。

成績評価の方法・評価の割合

教育実習レポート

評価の基準

： 独自のルーブリックに基づき4段階で評価します。

100%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『中学校学習指導要領』改訂版（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習だけでなく、実習前の準備、実習後の振り返りにも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 実習期間中および実習前後
 場所： 生活デザイン第2研究室
 備考・注意事項： 事前事後指導にて対応します。

授業計画

回数	内容	実習ノートの作成	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	観察・参加実習 ・生徒の実態、教師の支援、授業の流れ等について把握する。 ・生徒と共に活動することにより、生徒理解を図る。 ・学校現場を具体的に観察し、その様子をとらえる。	実習ノートの作成	4時間
第2回	指導実習	実習ノートの作成	4時間

- ・指導を通して指導のあり方を把握し、指導技術を身につける。
- ・指導案を作成し、それに沿って実際に研究授業を行う。
- ・学級での指導を通して、学級経営のあり方を把握する。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動等に参加し、その特質とあり方を把握する。

※それぞれの実習校により、指導実習の内容は異なる。

授業科目名	教職実践演習（中学校）				
担当教員名	松岡依里子・大槻雅俊・白瀬浩司				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	・配布資料に基づき、教職に必要なキーワードを概説し、グループディスカッションを行います。・毎回の授業の終わりに授業まとめ、自己省察レポートを提出します。（400字程度）・模擬授業を行い、実				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

中学校の現場に立つ者として、最小限必要な資質・能力、及び教育実践力が身につけているかどうかを自ら確認します。その上で、自己課題を明確にして、その課題を自ら解決します。また、教員になる者としての自己の適性やよさに気づき、それを定着させ、さらにそれを向上させます。

上記の学びを通して、自信と誇りをもって中学校の教員として実践的なスタートが切れるようにします。さらに、他者の実習経験から、実習の課題についてグループディスカッションを行い、学びを定着させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育実習後の教師の資質定着のための知識、技能の確認	知識、技能、職業理解の定着化をはかり、教師としての資質を磨く。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育実践能力の向上	模擬授業の再構成を行い、他者評価、自己省察から課題発見の力をつける。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		実習体験後の自己省察、他者評価による課題発見
2．DP6. 行動・実践		実習後学びを再考し、教師として実践していく力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

： 独自のルーブリックに基づき4段階で評価させます。

50%

課題レポート

： 独自のルーブリックに基づき4段階で評価させます。

50%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省 「中学校学習指導要領、及び同各科等解説書」平成20年
渋谷真樹他編著 「集団を育てる特別活動」 ミネルヴァ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 授業前での質問を受け付ける。メールアドレス sed@osaka-seikei.ac.jp に、件名「教科名、学籍番号、氏名」を記載の上、送付のこと。

授業計画

第1回

オリエンテーションー教育実習の振り返りー（松岡）

授業内容についてまとめること。キーワード；授業評価

授業外学修課題にかかると自らの時間

4時間

	教職実践演習の意義を理解し、演習の進め方と評価の方法の説明する。		
第2回	教職の意義と教員の責務（大綱） 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	授業内容についてまとめること。キーワード 教師資質	4時間
第3回	生徒指導①児童生徒の理解（大綱） 教育実習体験を基に、児童生徒の理解とかかわり方について省察する。	振り返りシートを作成する。	4時間
第4回	生徒指導②教育者問題（大綱） 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応について学ぶ。 (いじめ・不登校など)	振り返りシートを作成する。	4時間
第5回	生徒指導③個性の尊重（大綱） 児童生徒の多様性尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	課題レポートを作成する。	4時間
第6回	生徒指導④学級づくり（大綱） 望ましい学級づくり、その意義と方法を学ぶ。	学級活動について、調べておく。	4時間
第7回	学習指導①授業とは（松岡）（白瀬） 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	教育実習ノートを再考し、課題レポートを書く。	4時間
第8回	学習指導②主体的な授業（松岡）（白瀬） 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	中学校のアクティブラーニングについて調べ、レポートを作成する。	4時間
第9回	学習指導③発問と板書（松岡）（白瀬） 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	模擬授業を再考、修正し、指導案を書いておく。	4時間
第10回	安全・安心で信頼される学校づくり（大綱） 地域と家庭と学校の連携・協働について学ぶ。	課題レポートを提出する。	4時間
第11回	模擬授業の展開①（松岡） 「学級活動」を想定した模擬授業及び授業研究を通して、指導力の向上をめざす。	振り返りシートを作成する。	4時間
第12回	模擬授業の展開②（松岡） 「道徳」を想定した模擬授業及び授業研究を通して、指導力の向上をめざす。	「人権」についての課題レポートを作成する。	4時間
第13回	コミュニケーション・ツールとしての学級通信（大綱） 学級通信の今日的意味と作成方法の修得	課題レポートを作成する。	4時間
第14回	保護者対応の意味と方法（大綱） 生徒の保護者との適切な対応について、ロールプレイングを通して保護者対応の模擬体験をする。	振り返りシートを作成する。	4時間
第15回	まとめ：めざす教師像確立のための省察と自己課題（松岡） 本演習で学んだ内容を振り返り、教育現場で活躍するための自己の強みや課題を整理する。	「なりたい教師像」について、授業をふまえてレポートを書く。	4時間
第16回			4時間

授業科目名	生徒指導・教育相談				
担当教員名	土田光子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	授業の初めに行う講義を受け、その内容についてグループワークに取り組み、発表することを基本とします。それを1時間で行う場合も、それぞれに時間を取り、3時間を費やす場合もあります。				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

学校教育における生徒指導と教育相談の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題も含めて学ぶ。また、具体的な生徒指導・教育相談の事例を取り上げ、問題の理解を深めるとともに、望ましい学級形成のあり方についても考究する。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導及び教育相談に関する現代的な課題を探求し、実際の教育活動の意義と実際的な取り組み方についての理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

望ましい生徒指導・教育相談のあり方への理解を深めることはもとより、多くの事例に対するロールプレイで技能を身につけ、教員の専門性について理解を深める。

目標：

生徒指導・教育相談に対する知的理解にとどまらずそれを使いこなせる力を身につけるには、さまざまな事例を分析し指導の方針を立て実行する力が必要なことを理解し、いかに責任の重い職業であるかの認識を深める

汎用的な力

- 1 . DP9. 役割理解・連携行動

一人で完結できる事例はまれであることを知り、教職員間・家庭・地域・関係諸機関との連携のとり方を知る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

事例検討は、一人ひとりが書き込んだポストイットカードを、班で模造紙に貼り出しブレインストーミングでうかんだ班の結論を、全体に発表するという形で行う。その各班の発表を聞いた後、ディベートを含む討論でさらに自分の考えを深め、今日の学びについて各自振り返りカードに7行以上の文章でまとめて提出する。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

振り返りカードのついては毎回通信の形で打ち込み、全体で共有する。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業の参加度	20%	： 毎回のグループワークで各自が書いたポストイットカードを採点する。
授業中の課題達成率	30%	： グループ発表の貢献度・発表内容を採点する。
レポート	50%	： 毎回の振り返りカード・中レポート・大レポート、計15回のレポート。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「生徒指導提要」文部科学省 教育出版
「子どもを見る眼」土田光子 解放出版社
「私を創ったもの」土田光子 明治図書

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： メールによる応答 m.tsuchida.069157@hotmail.co.jp

授業計画

		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	オリエンテーション：生徒指導・教育相談の概要 生徒指導、教育相談を学ぶ意味と進め方について知る。グループ編成を行う。	学修内容について整理する。この講義に期待するもの及び自分の問題意識を整理しておく。 4時間
第2回	学校現場における生徒指導の理論、位置づけと体制 学校現場における生徒指導が学校全体の中でどのように位置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような子ども観をもとに何を指して実践されているかについて理解する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。生徒指導とは何か、グループワークで論議したことをまとめておく。 4時間
第3回	生徒指導と子どもの人権 体罰と懲戒 子どもの人権を尊重した生徒指導とは何か、事例をもとに探求する。また、懲戒・体罰と教師の指導性について考察し、真の生徒指導とはどうあるべきかを探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。小・中時代、自己肯定感を高められた・あるいは傷つけられた指導を受けた体験を振り返り、まとめておく。 4時間
第4回	生徒指導の理論と手法（1）—自己と向き合う 個別の課題を抱え問題行動に走る子どもの背景について事例をもとに分析し、自己と向き合う生き方を子どもとともに探求していく手法を学ぶ。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、問題行動に走る生徒への指導の事実を自分の中学校時代の体験から振り返る。 4時間
第5回	生徒指導の理論と手法（2）—対人関係を見直す 子どもたちが人間関係づくりに稚拙である実態を知り、その関係を改善させていく手法を考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。人間関係づくりのワークショップで学んだことや論議になったことについてまとめておく。 4時間
第6回	生徒指導の理論と手法（3）—学級集団づくり 子どもたちが集団の中で起こる対立や葛藤によって個を鍛え育ていく事実を知り、集団づくりの大切さとその手法について探求する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワークでの論点をまとめるとともに、集団づくりについて文献にあたる。 4時間
第7回	学校・家庭・地域社会の連携 学校が家庭や地域との連携して取り組んだ生徒指導事例をもとに、連携の大切さとその方法について考究する。	学修内容について整理する。学校・家庭・地域の連携によって指導に成果の上昇した事例を、授業で扱った事例以外で見つける。 4時間
第8回	教育相談の位置づけと体制、前提となるカウンセリングマインド 学校教育の中で、なにゆえ教育相談が重要な意味を持つようになったのか、その位置づけと体制、また、矯正の発想とは逆の、受容・傾聴・共感から始まる教育相談のあり方について考究する。	学修内容について整理する。教育相談について、文献にあたる。 4時間
第9回	学校における教育相談と心理療法・カウンセリングの理論 学校における教育相談において必要な、心理療法・カウンセリングについてその理論を考究する。受容・傾聴・共感的理解などの教育相談の基礎基本については、ロールプレイで実感できるようグループワークを行う。	学修内容について整理する。心理療法・カウンセリングの実際について、文献にあたる。 4時間
第10回	教育相談の具体的な進め方における組織的取り組み・連携の必要性 教育相談にあたってはその専門担当者を中心に組織的な取り組みが必要であることを理解する。児童生徒のほうから相談に訪れることはまれであり、多くの目で個々の児童生徒の日常をよく見ていく中で、相談を必要としている個が発見される筋道を知ること、連携の必要性を実感する。	学修内容について整理する。第8回で考察した教育相談の位置づけ・体制と重ね具体的な事例から連携の必要性についてまとめる。 4時間
第11回	児童生徒の不応答・問題行動の意味。発するシグナルSOSを見抜く目 前回の内容を発展させ、個々の児童生徒の日常をよく見るといつても、何をどう見ていくのがわからないと何もつかめないことを知り、「子どもを見る眼」を鍛えるために用意された事例をもとに、その背景にあるもの、根本的な原因を見て取ろうとする姿勢について考究する。	学修内容について整理する。授業で検討した以外の事例を課題に、子どもの事実をどう捉えどどのような声かけをしていくのかレポートにまとめ次回提出する。 4時間
第12回	不登校・いじめ問題と教育相談及び地域の医療・福祉など連携の重要性	学修内容について整理する。不登校・いじめについて解決に向けた文献にあたる。 4時間

	<p>不登校・いじめ問題について、その解決に向けた取り組みの事例をもとに、発達段階発達課題に応じた教育相談の進め方について知るとともに、課題を学校だけで抱え込まず広く関係諸機関と連携することによって、よりよい形で解決に向かうことができた事例に触れ、連携の重要性を認識する。グループワークを行う。</p>		
第13回	<p>発達障害の理解・援助と対保護者も含めた学校教育相談</p> <p>発達障害についての理解を深め、その支援・援助のあり方と、子育てに悩む保護者も含めた学校教育相談の果たす役割について、考究する。</p>	<p>学修内容について整理する。発達障害について文献にあたる。</p>	4時間
第14回	<p>学校現場における教育相談活動の実際</p> <p>教育相談の事例をもとに、教育相談の望ましいあり方について考究する。グループワークを行う。</p>	<p>学修内容について整理し、レポートに備える。目指す教育相談のあり方について、グループワークでの論点を中心にまとめる。</p>	4時間
第15回	<p>実践事例研究とまとめ</p> <p>望ましい生徒指導及び教育相談のあり方について考究する。</p>	<p>学修内容をレポートする。15回の授業全体から学んだことをまとめておく。</p>	4時間

授業科目名	栄養教育実習事前事後指導				
担当教員名	弓岡仁美				
学年・コース等	1・2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	授業は、講義及び演習形式で行います。また、2年間を通して10回の授業であるので、実施日は不定期です。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、2年間に亘って栄養教諭としての教育実習の意義や目的を理解し、実習のねらいにあわせて学校教育についての理解を深めることを目指す。教諭二種免許状取得のためのオリエンテーションから教育実習後の報告会まで、教育実習に必要な事項の事前確認と振り返りを中心に構成されている。1回生では、主に教職免許を取る心構えと2回生の実習報告会への参加の2回授業がある。2回生では、実習前の授業計画と実習後の報告を中心とした8回の授業があり、2年間で合計10回の授業を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	教育実習の意義、手続きについて理解する。	教育者としての実習について理解し、児童とのかかわりについて理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	栄養教諭の教育実習に必要な知識と技術について理解する。	栄養教諭としての専門的知識・技能を修得し、研究授業に対する準備ができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		教育実習に対して、自分に不足している知識及び技能について気づくことができる。
2．DP6. 行動・実践		教育実習に対して積極的に考え、行動できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

： 毎回テーマに沿った課題を作成し、科目独自のルーブリックを用いて評価する。10点×7回の課題を提出する。

70%

振り返りシート

： 毎回の授業について振り返り、課題発見や気づきを記述し、独自のルーブリックを用いて評価する。

30%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

食に関する指導の手引～第一次改訂版～（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。本授業は、栄養教育実習に行くための事前事後指導であるので、受講状況や態度によっては教育実習に参加できない可能性がある。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜2限

場所： 栄養第2研究室

備考・注意事項： それ以外の時間でも研究室に在室の場合はいつでも質問に応じます。

授業計画

第1回	栄養教育実習の意義や目的及び概要について・教育実習依頼の手続き	栄養教諭免許取得を目指す心構えについてレポートを書く。	授業外学修課題にかかる目安の時間
	栄養教諭についての学科オリエンテーションを行う。教務課の担当者より母校への教育実習の依頼手続きについて説明する。		3時間

第2回	教育実習体験発表会 2 回生より教育実習の体験発表を聞き、終了後グループワークを行う。	次年度の教育実習に向けて、自分が5日間の教育実習でどんなことをやりたいかをレポートする。	3時間
第3回	履修カルテの説明と記入 履修カルテの概要について学び、記入可能な箇所について、各自が記入する。これによって、各自の実習前の履修状況や準備状況を確認する。	履修カルテを記入後、教職での学びを振り返る。	3時間
第4回	教育実習の基本的事項と実習校での諸活動 教育実習で理解する学校での教育活動について学ぶ。	各自の実習先についてレポートする。	3時間
第5回	人権教育 教育実習に向けて、本分野専門の教員より講義を受ける。教育実習先でどのような人権的配慮を求められるのかを各自が確認する。	本時の内容をレポートする。	3時間
第6回	教育実習のための指導技術の習得 教育実習での研究授業の進め方について学ぶ。	教育実習の目標を考える。	3時間
第7回	学習指導計画と教育実習記録の意義と作成 学習指導計画をグループワークで作成する。 教育実習ノートの記入についてオリエンテーションを行う。	教育実習に向けて、目標設定を行い、文章化する。	3時間
第8回	実習直前指導 教育実習に行く心構えや実習校との打ち合わせ事項の確認を行う。	教育実習に向けて準備すべきことについて考える。	3時間
第9回	教育実習内容の報告 教育実習後、実習内容について発表する。	他の学生の実習報告も聞き、自分の課題についてレポートする。	1時間
第10回	教育実習の成果・自己評価 実習の成果を発表後、1 回生も交えてグループワークにて振り返りを行う。	栄養教諭として、教育者としての自己評価をレポートに記入して提出	1時間

授業科目名	栄養教育実習				
担当教員名	弓岡仁美				
学年・コース等	2	開講時期	通年	単位数	1
授業形態	5日間の小中学校における栄養教諭としての教育実習である。実習内容は、実施校によって異なる。共通していることは、実習中に研究授業を行うので、事前に入念な準備が必要である。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

栄養教諭は、直接的に教育指導を行なう教員であり、その職務は「児童の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことにある。本科目では、このことを認識したうえで、実際の教育現場において教育者としての能力を身につけるための実習を行なう。5日間という限られた時間の中で、自己の習得した理論や技術を適用し、果たして十分な効果が得られるか検証することを目指す。したがって、栄養教諭としてだけでなく、小学校及び中学校の教諭として、児童や生徒への対応や学校組織の一員としての役割などを実践から学ぶ科目である。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校教育現場に入り、教諭の立場や役割を理解する。	教育者として児童・生徒に関わり、一人一人の個性を理解できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	栄養教諭の役割を理解し、食に関する指導を行う。	栄養教諭として、給食時間や授業を通して、食に関する指導を実践できる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		自ら学んできたことを振り返り、自己の課題を発見することができる。
2．DP6. 行動・実践		研究授業に向けて、積極的に行動し、実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

実習の記録および報告書

50%

実習先の評価

50%

評価の基準

： 教育実習の記録について、正確性、明確性、論理性、簡潔性、読みやすさ等の観点から5段階で評価する。

： 実習先の指導教員によって、実習態度、マナー、教諭としての資質、実習記録等の観点から5段階で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「食に関する指導の手引き-第一次改訂版-」/文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。実習だけでなく、実習前の準備や実習後の振り返りにも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜2限

場所： 栄養第2研究室

授業計画

第1回

小学校での教育実習（5日間）

栄養教諭二種免許取得のための教育実習を行います。実習期間は5日間ですが、実習校の先生との打ち合わせを事前に行いましょう。

「私にとっての教育実習の意義」について考える。毎日、実習記録を記載するとともに、次の日の準備等を計画的に行う。

授業外学修課題にかかる目安の時間

10時間

授業科目名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当教員名	大槻雅俊・弓岡仁美				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	栄養教諭免許取得希望者を対象に、学校の教育現場に応じた実践的な演習を中心として行ないます。小学校教諭経験者と学校栄養士経験者の教員によるオムニバス形式にて行い、食育活動の企画と実践など参加型の授業				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、栄養教育実習後、栄養教諭として最小限必要な資質・能力及び教育実践力が身につけているかどうか評価し、学生自身が教壇に立つものとしての自己課題を明確にし、それを克服しようとする意欲を持つことを目指す。これまでの栄養教諭に必要な学びの集大成として本授業が位置づけされており、栄養教諭免許取得者として自覚することを目的とする。グループワークなどを通して、自分に不足している力を発見かつ克服し、栄養教諭資格取得者に相応しい知識と技術を修得したことを確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	栄養教諭としての知識技能の修得を確認する。	これまでの学びを振り返り、栄養教諭に必要な知識技能を修得したことを確認できる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教職の意義や教員の役割、子どもや地域とのかかわりについて学び、理解する。	食に関する授業やイベントを企画・立案し、実施することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		履修カルテから、自己に不足している力や自己の課題に気づくことができ、克服する。
2．DP9. 役割理解・連携行動		教員としての使命感をもち、社会性や対人関係能力を身につける。

学外連携学修

有り（連携先：わらしこ学童保育所）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40%	： 教員が授業内で指示したテーマに沿ったレポートや製作物を40点満点で評価する。
課題レポート	40%	： 科目独自のルーブリックによって、毎回授業の振り返りシートや課題レポートを40点満点で評価する。
受講状況	20%	： 各回授業への積極的参加（発表や質問等）や受講態度（マナー、私語、姿勢など）を学科独自のルーブリックによって総合的に20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考資料等：必要に応じて資料やプリントを配布する。

参考図書：栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂（医歯薬出版）
食に関する指導の手引き（文部科学省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限
場所： 栄養第2研究室

備考・注意事項： メールでも受け付けます。
yumioka@osaka-seikei.ac.jp

授業計画			授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	オリエンテーション（自己の課題を確認し、授業概要を理解する。） 演習の進め方と評価方法について理解する。 履修カルテに必要事項を記入し、栄養教諭取得に向けて自らの課題について考える。	本授業における各自のテーマを書く。	4時間
第2回	教職の意義と教員の責務 教育実習体験や自分の生徒時代を省察し、教職の意義や教員の責務を再認識する。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第3回	生徒指導①児童生徒の理解 教育実習体験を基に、子どもへの理解とかわり方について省察する。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第4回	生徒指導②教育者問題 児童生徒を取り巻く諸問題の理解と対応について学ぶ。（いじめ・不登校など）	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第5回	生徒指導③個性の尊重 子どもの多様性尊重と教師の役割について概観し、ディスカッションを行う。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第6回	生徒指導④学級づくり 望ましい学級づくり その意義と方法を学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第7回	学習指導①授業とは 授業づくりと教育実習体験についてその知識と実践方法を学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第8回	学習指導②主体的な授業 授業づくりの方法（1） 児童生徒が主体的に学ぶ授業方法について学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第9回	学習指導③発問と板書 授業づくりの方法（2） 授業における指導技術の向上をめざす。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第10回	安全・安心で信頼される学校づくり 保護者や地域と学校との信頼関係の構築について学ぶ。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第11回	児童生徒および保護者への対応（食に関する個別対応など） 学校給食における食物アレルギー等個別指導への対応方法について学び、ロールプレイによって理解を深める。	復習と次回の学習に向けて予習	4時間
第12回	地域と家庭と学校の連携・協働①（企画・立案） 地域の学童保育所と連携し、児童主体のクッキングを企画、立案する。	「クッキング」の運営マニュアルの作成	4時間
第13回	地域と家庭と学校の連携・協働②（食育指導資料の作成） 地域の学童保育所と連携した児童主体のクッキングに使用する指導資料を作成する。	指導資料を完成させる	4時間
第14回	地域と家庭と学校の連携・協働③（実施） 地域の学童保育所の児童へのクッキングを実施する。	クッキングの準備（食材発注、会場準備など）	4時間
第15回	まとめ 地域の学童保育所の児童へのクッキングを振り返り、検討する。 自己の栄養教諭としての資質能力について確認する。	最終レポートを作成する	4時間

授業科目名	教育課程論				
担当教員名	松田 修・山本はるか				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

学校における日常の教育活動は、教育課程に沿って展開されており、極めて重要である。その教育課程の基本ラインが学習指導要領に示されている。本講義では、教育課程編成の意義、教育課程の編成に当たっての考え方や方法、教育課程の歴史の変遷、教育課程をめぐる様々な課題について学び、教育課程のありかたについて修得していきます。また、新学習指導要領では、「特別活動」をはじめ「総合的な学習の時間」など、他の教科との関連等についても述べられており、教科・教科外のカリキュラムについても理解を深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP1. 幅広い教養やスキル	教育課程の意義や歴史の変遷、その編成にあたっての仕組み	教育課程の意義や歴史の変遷、その編成にあたっての仕組みについて基礎的な知識を習得するとともに、求められるこれからの教育課程について説明できる。
汎用的な力		
1 . DP4. 課題発見		多様な議論や考え方を踏まえ、教育課程における課題を発見できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験レポート	50%	: 教育課程の基礎的な知識を等ためのレポート。
授業内課題	30%	: 授業において提示する小レポートで評価する。
授業への参加度	20%	: 授業中の質疑応答、発言、授業振り返りカードの記述で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年6月 文部科学省）
『よくわかる教育課程』 田中耕治 ミネルヴァ書房 2009年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 松田：火曜4限，山本：水曜のお昼休み
場所： 各教員の研究室
備考・注意事項： 研究室訪問の際には、メールで事前に連絡をお願いします。

授業計画

回数	内容	配布プリントを基に復習し、教育課程の意義や必要性についての理解を深める。	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 教育課程の意義と必要性 授業に当たって連絡事項、評価等についての確認を行う。教育課程とは何かを理解し、その意義・必要性について学ぶ。		4時間

第2回	教育課程の変遷と学習指導要領(1) 一明治以降～戦後にかけて一 明治以降の学校教育の基本方針と教育課程との関係や戦後の教育改革と学習指導要領との関係について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、明治以後の教育課程と学校緒教育の基本方針、戦後の教育課程と学習指導要領との関係について理解を深める。	4時間
第3回	教育課程の変遷と学習指導要領(2) 一高度経済成長期～平成20年にかけて一 高度経済成長期から平成20年までの学習指導要領の変遷や課題について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、高度経済成長期から平成20年までの学習指導要領の変遷や課題について理解を深める。	4時間
第4回	教育課程編成の思想と構造(1) 一主に経験主義を中心に一 経験主義を中心とした教育課程における思想的な背景、構造について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、経験主義を中心とした教育課程における思想的な背景、構造について理解を深める。	4時間
第5回	教育課程編成の思想と構造(2) 一主に系統主義を中心に一 系統主義を中心とした教育課程における思想的な背景、構造について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、系統主義を中心とした教育課程における思想的な背景、構造について理解を深める。	4時間
第6回	教育課程の分化と統合 教育課程の分化と統合をめぐる議論を踏まえ、実効的な教育課程の編成について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、教育課程の分化と統合についての理解を深める。	4時間
第7回	教育課程編成の手順と実際 教育課程編成の方法や手順について学ぶ。	配布プリントをもとに復習し、教育課程編成の手順や方法について理解を深める。	4時間
第8回	教育課程と評価 評価の考え方とその変遷について学ぶ。	配布プリントをもとに復習し、評価の考え方とその変遷について理解を深める。	4時間
第9回	新学習指導要領の改訂の趣旨と資質・能力 新学習指導要領の改訂の趣旨と育成したい資質・能力について理解するとともに、どのように授業改善をしていく必要があるのかを学ぶ。	配布プリントをもとに復習し、求められる資質・能力や授業改善の視点についての理解を深める。	4時間
第10回	顕在的カリキュラムと潜在カリキュラム 顕在的カリキュラムと潜在カリキュラムの違いと後者の働きの重要性について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、顕在的カリキュラムと潜在カリキュラムについての理解を深める。	4時間
第11回	教育課程と学力向上策 今日、子どもたちの学力向上を目指して、様々な教育環境の整備が行われたり、工夫がなされたりされている。これらの教育環境整備と教育課程との関連や学力について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、教育環境と教育課程や学力との関連について理解を深めることができる。	4時間
第12回	学習指導要領と特別活動 特別活動の目標・内容からどのような態度や力を身に付けていくのかを分析し、自らの体験を振り返り、特別活動の特質・教育的意義について学ぶ。	配布プリントを基に復習し、特別活動の目標・内容から育成したい態度や力、特別活動の特質・教育的意義について理解を深める。	4時間
第13回	学級づくりと特別活動 学級経営の基盤として、「いじめ」の予防的な役割として期待される特別活動について、とりわけ学級活動をもとに、その指導法を学ぶ。	配布プリントを基に復習し、学級経営の基盤として、「いじめ」の予防的な役割として期待される特別活動について、とりわけ学級活動をもとに、その指導法について理解を深める。	4時間
第14回	特別活動と各教科・特別の教科道徳・総合的な学習の時間との関連 特別活動は各教科等で学んだ知識・技能を生き生きと働く力に変え、特別活動で身に付けた力が教科等での学習の基盤になることを学ぶ。	配布プリントを基に復習し、特別活動と各教科・特別の教科道徳・総合的な学習の時間との関連について理解を深める。	4時間
第15回	まとめ これまでの授業を振り返り、教育課程における様々な視点についての考え方や特別活動の取り組みなどから教育現場における問題について考察する。	課題に備えて学修内容をまとめて、レポートを作成する。	4時間